

武蔵国分寺公園クリニック
医療専門職 臨床研修プログラム

1. プログラム名称			
武蔵国分寺公園クリニック 医療専門職 臨床研修プログラム			
2. プログラム責任者			
プログラム責任者氏名	名郷直樹	指導医認定番号	
所属・役職	武蔵国分寺公園クリニック 院長		
所在地・連絡先	住所 〒 東京都国分寺市西元町 2 丁目 16-34-127 電話 042-320-4970 FAX 042-320-4976 Website http://ebm-clinic.com/		
担当者氏名*・役職	福土元春（副院長）		*プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合のみ記載
連絡先	電話 同上 FAX 同上 E-mail ホームページのメールフォームからご連絡ください。		
3. プログラムの概要			
<p>「人は病気になり、死ぬことを避けられない」という現実を基盤にすえ、あらゆる問題に対応できる医療人の育成が、本プログラムの基本理念である。</p> <p>この基本理念は、以下のように 0 の軸、1 の軸、3 の軸、5 の軸で多面的に定義づけている。</p> <p>0 の軸： 万物は流転する（人は生まれ、生き、病気になり、死ぬ）</p> <p>1 の軸： あらゆる問題に対応する</p> <p>3 の軸： 多様な視点を持つ 境界を設けない 患者のナラティブを重視する</p> <p>5 の軸： 患者によって自分を変える 患者や問題の種類により差別をしない 生物学的問題だけでなく心理社会的問題も重視する 臓器、ヒトにとどまらず、家庭、地域をも視点とする 診察室に來ない人のことも考慮する</p> <p>研修の場は、複数の家庭医がグループ診療を展開する都市部のクリニックである。クリニックでは幅広い年齢や健康問題に対応する外来診療と 24 時間対応の在宅医療を提供している。</p> <p>このプログラムでは、Evidence-based medicine(EBM)、行動科学、患者中心の医療の方法を使いこなし、幅広い健康問題が取り扱える医療人を育成する。特に EBM においては、EBM 実践のリーダーとなる人材を育成する。</p> <p>さらに、臨床につながる研究・教育についても重視し、EBM スタイル診療支援システム「ドクターベイズ」を利用した臨床研究への参加、臨床研究コースの受講、医学教育に関する臨床研究、初期臨床研修医教育に導入している教育スキルについて研修できる。</p>			

4. アウトカム（研修目標）
<ul style="list-style-type: none"> ・ Evidence-based medicine(EBM)を実践する上での基本的スキルを身につける。 ・ 行動科学、患者中心の医療の方法の基礎知識を修得し、幅広い健康問題に対応できる基本姿勢を身につける。
5. 評価基準・評価の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床上の疑問を DynaMed, UpToDate, CMEC ジャーナルクラブなどの二次情報を利用して情報検索ができる。 ・ 論文（ランダム化比較試験またはランダム化比較試験のメタ分析）を短時間で批判的吟味できる。 ・ 患者に対して、相手の病い体験(Illness)、個人の価値観(Person)、文脈(Context)や行動科学的ステージに配慮した説明ができる。 ・ 評価は随時行う。
6. 学びの機会・教育方法
外来診療
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来診療見学 ・ その場の1分の情報検索法 ・ 外来レビュー
在宅診療
<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問診療見学
研修
<ul style="list-style-type: none"> ・ レクチャー：EBM 5つのステップ、患者中心の医療の方法 ・ ワークショップ、院内勉強会など
7. ふりかえり・評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日「日々の活動記録」を記録しながらふりかえり、研修状況を共有する。 <p>研修開始時に設定した個別の研修目標に沿って研修を行い、中間（1週間以上）・終了時に到達度を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修終了時には多職種からの行動評価（360度評価）を実施する。
8. プログラムの質改善の方法
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修生のふりかえり・評価の結果から研修状況を把握し、随時研修プログラムに反映させる。 ・ 日々の診療の質を評価し改善するための診療支援システム「ドクターベイズ」を利用しながら、診療やプログラムの質向上に役立てる。 ・ プログラム修了者をフォローアップする。 ・ 研修生、外部評価委員を含むプログラム委員会を定期的を開催し、プログラム評価を実施する。 ・ 上記の検討を踏まえ、研修プログラムを年1回改訂する。 ・ 研修終了時には多職種からの行動評価（360度評価）を実施する。